

足利市教育委員会指定研究学校（人権教育）研究のまとめ

足利市立富田中学校

I 研究の概要

1 研究主題

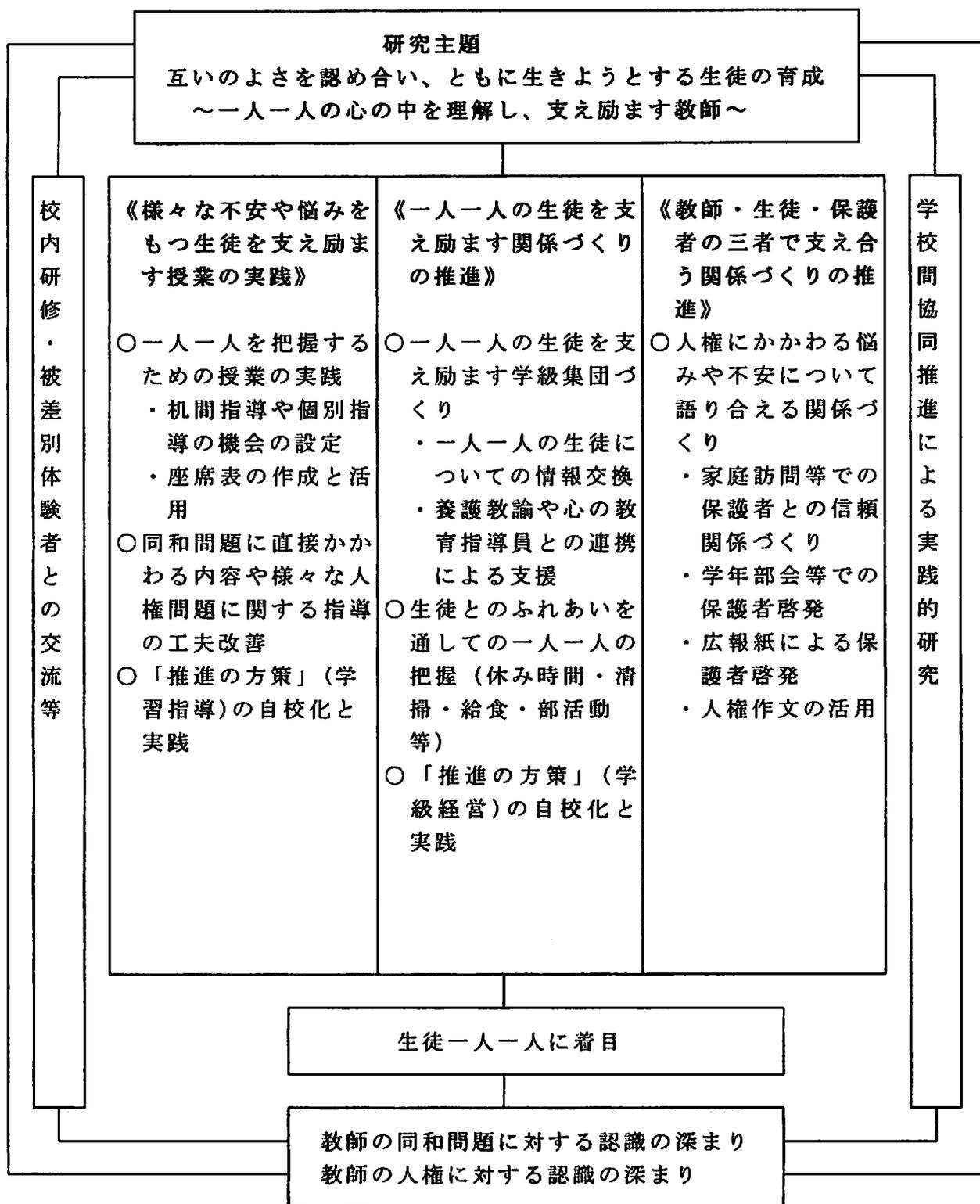
互いのよさを認め合い、ともに生きようとする生徒の育成
～一人一人の心の中を理解し、支え励ます教師～

2 研究主題設定の理由

本校では、自らを「かけがえのない存在である」と気付かせるために「一人一人の存在感を認め合い、尊重し合う心を養う」というねらいのもと、人権教育の推進に取り組んできた。しかし、本校の生徒同士は仲がよく落ち着いている反面、やや人間関係が狭く固定化しているのではないかという実態もある。そこで、学校生活や授業の中で生徒とのかかわりをできるだけ多くもちながら、一人一人の生徒の心の中を把握することが大切であると考え、研究主題を「互いのよさを認め合い、ともに生きようとする生徒の育成」と設定した。

「互いのよさを認め合える」生徒を育成するためには、教師が自らの実践を振り返ることが必要である。私たち教師は、生徒たちが互いのよさを認め合えるように、一人一人の生徒のよさを認めて伸ばしていただろうか、あるいは、生徒の悩みや不安を本当に理解し支えていただろうか、思いや願いを把握し励ますことができていただろうか。私たち教師は、もっと生徒一人一人を見つめ、実態を把握することに努めなくてはならない。学校生活の中で、授業の中で、生徒とのかかわりをもちながら、生徒一人一人のつまずきや不安、悩み、思いや願いに気付ける教師になりたい。研究主題に迫るための当面の課題として、そのように教師が変わることがまず大切であると考えた。以上のことから、研究副主題を「一人一人の心の中を理解し、支え励ます教師」と設定し、実践に取り組むことにした。

3 研究推進構想



4 研究経過

研究1年目（平成15年度）

- (1) 研究主題、副主題を設定して、生徒の実態を把握するための実践に取り組む。
- (2) 研究組織を設定し、具体策を検討・提案する。
 - ・学習指導推進部…授業での実践をすすめる
 - ・人間関係推進部…学級経営をはじめとする学校生活での実践をすすめる
- (3) 研究内容として、以下の三つから実践に取り組む。
 - ①様々な不安や悩みをもつ生徒を支え励ます授業の実践（学習指導の推進）
 - ②一人一人の生徒を支え励ます集団づくりの推進（人間関係づくりの推進）
 - ③教師・生徒・保護者の三者で支え合う関係づくりの推進（保護者啓発の推進）

月 日 (曜)	主 な 研 究 内 容
4月23日(水)	人権教育についての全体研修【現職教育】 ・研究学校指定についての市教委の説明、人権教育の進め方の共通理解
4月28日(月)	P T A総会、授業参観、学年部会での保護者啓発 ・P T A総会、学年部会での啓発 ・人権教育だよりの発行(第1号)
4月30日(水) ～5月2日(金)	家庭訪問での保護者との関係づくり
5月21日(水)	生徒理解のための情報交換【現職教育】 ・配慮を要する生徒を中心に、一人一人の生徒の情報交換
6月27日(金)	実態調査の実施(生徒・保護者・教師)
7月9日(水)	学年部会、授業参観での保護者啓発 ・学年部会で本校の人権教育について(学年主任より)
7月30日(水)	同和問題についての研修【現職教育】 ・被差別体験者との交流研修を通して、同和問題についての認識を深める。(富田小と合同、会場 富田中)
9月3日(水)	各推進部での具体策の検討、提案【現職教育】 ・研究授業指導案形式等の検討(学習指導推進部) ・一人一人の生徒を生かした学級経営、生徒とのふれあいの具体策の検討(人間関係推進部)
9月11日(木)	広報紙による保護者啓発 ・人権教育だより(第2号)の発行 ・人権作文の保護者感想募集
11月4日(火)	授業研究会【現職教育】 ・研究副主題に基づく研究授業を通しての実践的研究(学校間協同推進) 1年1組 学活(田中教諭) 2年1組 道徳(増淵教諭) 3年1組 社会科(勅使河原教諭) ※ <u>机間指導や個別指導の場を設定しての一人一人の生徒の把握</u>
12月3日(水)	校内研修会「足利市の人権教育」漆原芳三先生【現職教育】
12月17日(水)	学年部会での保護者啓発 ・人権教育だより(第3号)の発行・学年部会(学年人権教育係より)
12月25日(木)	2学期の研究の反省と今後の課題【現職教育】 ・研究授業の研究方向の検討と今後の課題(学習指導推進部) ・日常生活での生徒とのかかわりの具体策の検討(人間関係推進部)

研究2年目（平成16年度）

- (1) 「推進の方策」におけるチェックポイントの自校化
 - ・副主題である「一人一人の心の中を理解し、支え励ます教師」になるためには、生徒一人一人の実態を把握することが大切だと考えた。チェックポイントは、私たち教師が、授業や学校生活の様々な場面で、生徒とのかかわりの中で、日常実践してきたことを話し合い、共通してだれもができることを集約したものである。
- (2) 研究授業における座席表の作成
 - ・生徒一人一人を把握するため教師の目を養うために、机間指導・個別指導の機会を多くもって、生徒一人一人をさらに把握することを目指している。
- (3) 「推進の方策」のチェックポイントの自校化との関連を図った授業の公開
 - ・各教科や学年・学級の実態に合わせて見直し、より具体的なチェックポイントの「自分化」を目指している。
- (4) 様々な場面での一人一人の生徒の把握と支え励ます実践
 - ・担任が一人一人の生徒の生活記録ノートを見てコメントを書いたり、職員間で生徒についての情報を担任に伝えるなどの取り組みをしている。

月 日 (曜)	主 な 研 究 内 容
4月21日(水)	PTA総会、授業参観、学年部会での保護者啓発 ・人権教育日より「ふれあい」第1号の発行、学年部会での啓発
5月19日(水)	人権教育についての全体研修【現職教育】 ・1年目の研究の確認と2年目の課題についての共通理解。
6月 2日(水)	生徒理解のための情報交換【現職教育】 ・配慮を要する生徒を中心に、生徒一人一人についての情報交換
6月11日(金) ～18日(金)	家庭訪問での保護者との関係づくり
7月 7日(水)	授業研究会【現職教育】 ・研究副主題に基づく研究授業を通しての実践的研究(学校間協同推進) 3年2組 道徳(渡邊教諭)
7月12日(月)	学年部会での保護者啓発【現職教育を兼ねる】 ・同和問題に関するビデオ「ドキュメンタリー結婚」の視聴
9月15日(水)	「人権に関する作文」の返却と保護者啓発 ・人権教育日より「ふれあい」第2号、人権作文の返却と感想の募集
10月13日(水)	研究授業事前研修【現職教育】 ・「推進の方策」チェックポイントの自校化についての共通理解
10月29日(金)	授業研究会【現職教育】 (学校間協同推進) ・研究副主題に基づく研究授業を通しての実践的研究 1年2組 体育(坂田教諭) 2年2組 国語(福田教諭) ※ <u>一人一人の生徒を把握する教師の目を養うための座席表の作成。</u> <u>机間指導・個別指導の機会の設定による生徒一人一人の把握。</u>
11月16日(火)	市教委主催「人権教育研修会」会場校 ・授業公開 3年1組 数学(伊藤教諭・中村教諭) ※ <u>チェックポイントの自校化との関連を図った授業の公開</u> ・全体会 「推進の方策」チェックポイントの自校化について ※ <u>授業や学校生活の様々な場面で日常実践してきたことを集約し、作成したチェックポイントの提示。</u>
12月 8日(水)	同和問題についての研修【現職教育】 ・被差別体験者との交流研修を通して、同和問題についての認識を深める(富田小と合同研修、会場 富田小)

12月 1日(月) ～15日(金) 12月15日(水)	人権週間(後期)の実施 ・人権集会での人権作文の発表・人権に関わる道徳の授業の実施 学年部会での保護者啓発 ・人権教育だより「ふれあい」第3号の発行、 学年部会での啓発(「人権作文」保護者の感想の紹介)
2月16日(水)	今年度の研究の反省と今後の課題【現職教育】 ・「チェックポイントの自校化」を見直し、改善を図る。 ・人権教育の取り組みについて各推進部ごとの反省。

研究3年目(平成17年度)

(1)「推進の方策」におけるチェックポイントの重点化

- ・一人一人の生徒をより把握するための授業の実践をさらに進めるために、昨年度のチェックポイントをより具体化し、本校として「いつでも、どこでも、だれでも、これだけはやっていこうというもの」を重点化している。

(2)チェックポイントとの関連を図り、座席表を記入した授業の実践

- ・チェックポイントを展開の中でより具体的に生かし、教科において把握した一人一人の生徒についての座席表を活用した授業を実践する。

月 日(曜)	主な研究内容
4月20日(水)	人権教育についての全体研修【現職教育】 ・2年目の研究の確認と今年度の課題についての共通理解。
4月22日(金)	P T A総会、授業参観、学年部会での保護者啓発 ・人権教育だより「ふれあい」第1号の発行、学年部会での啓発
5月11日(水)	生徒理解のための情報交換【現職教育】 ・生徒一人一人についての情報交換
6月10日(金) ～17日(金)	家庭訪問での保護者との関係づくり
7月 8日(水)	授業研究会【現職教育】 ・研究副主題に基づく研究授業を通しての実践的研究(学校間協同推進) 3年1組 技術・家庭科(野田教諭) <u>※チェックポイントと授業の展開での具体的な関連。教科の授業を通して把握した一人一人の生徒についての座席表の作成。</u>
7月11日(月)	学年部会での保護者啓発【現職教育を兼ねる】 ・保護者との話し合いと関係づくり
8月10日(水)	同和問題についての研修【現職教育】 ・被差別体験者との交流研修を通して、同和問題についての認識を深める(富田小と合同研修、会場 富田中)
9月26日(月)	「人権に関する作文」の返却と保護者との関係づくり ・人権教育だより「ふれあい」第2号、人権作文の返却と感想の募集
10月 5日(水)	研究授業事前研修【現職教育】
10月19日(水)	・研究授業の指導案の検討、座席表の検討 ・「推進の方策」チェックポイントの自校化についての共通理解
11月10日(金)	授業研究会【現職教育】 (学校間協同推進) ・研究テーマに基づく研究授業を通しての実践的研究 <全学級公開> <u>※重点化を図ったチェックポイントと学習指導との関連。教科の授業を通して把握した一人一人の生徒についての座席表の作成。</u>

II 研究内容

1 様々な不安や悩みをもつ生徒を支え励ます授業の実践

(1) 基本的な考え方

学習指導推進部を中心に、様々な不安や悩みをもつ生徒を支え励ます授業の実践に全教師で取り組んでいる。生徒を支え励ます教師になるためには、生徒一人一人の実態を把握することが大切である。授業において、生徒の不安や悩みは何なのか、具体的ななかかわりをもって生徒の学習状況や人間関係、生活背景等を把握するよう努めている。

(2) 実践

① 一人一人の生徒のつまずき、不安や悩み、思いや願いを把握するための授業の実践

- ・一人一人が活動できる場を意図的に設けることで、一人一人の生徒の表情やしぐさを観察したり、机間指導や個別指導をして声をかけたりするなど様々な手立てを考えて、生徒の実態把握に努めている。

座席表について

- ・一人一人の生徒の学習のねらいを達成するために、これまで把握してきた、学習状況、人間関係、生活背景等を書く。見えたものは何か、見えなかったものは何か、書くことで整理していく。見えなかったときは次回意識して見るようになる。

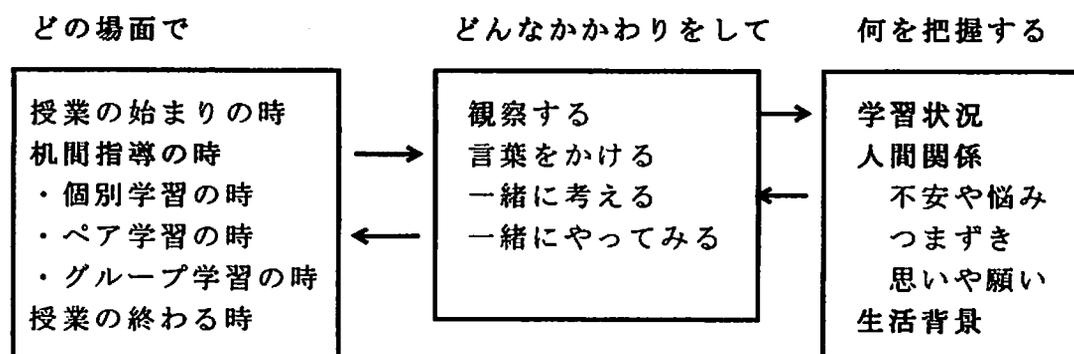
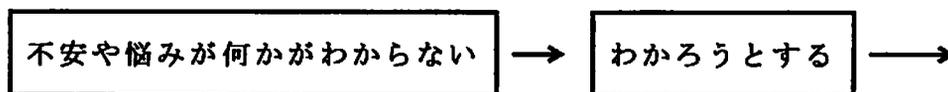
② 同和問題に直接かかわる内容や様々な人権問題に関する指導の工夫改善

- ・同和問題について悩むであろう生徒の立場に立って、社会科における同和問題に直接かかわる内容の指導の工夫改善に努める。
- ・各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間で扱う様々な人権問題に関する指導の工夫改善を図る。

③ 「推進の方策」の「視点やチェックポイント」(学習指導)の自校化と実践

- ・生徒の実態を授業において把握するために、全職員が共通して取り組むものとして、チェックポイントを作成し自校化を図った。つまり、チェックポイントは、教師がどうしたら生徒の不安や悩みをいち早く察知できるか、教師の生徒を見る目をチェックするためのものである。

このチェックポイントをもとに教師の生徒を見る目を養い、その教師の目でとらえられた生徒の実態を「座席表」に記していくという積み重ねをしている。



＜自校で作成した「チェックポイント」(一部抜粋)＞

○太字…本校での重点化

ねらい	視 点	各 教 科
<p>偏見や差別のない民主的な人間関係の確立に努めることのできる人権感覚を身につける。</p>	<p>① 学級集団の中で疎外されている生徒、疎外されやすい生徒の的確な把握に努める。</p> <p>② 総合的、組織的に情報を収集し、多面的に理解して活用する。</p> <p>③ 一人ひとりの学習のスタイルや速さが違うことを理解する。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>一人ひとりの生徒が相互に支え合いながら積極的に参加できる学習指導</p> </div> <p>○始まりのあいさつのとき、一人一人の表情を観察しているか。 ・いつもと違う様子 ・学習意欲</p> <p>○生徒の表情、しぐさ、口調を観察して学習状況を把握しているか。</p> <p>○机間指導して個に応じた言葉をかけて学習状況を把握しているか。 ・とまどっていたら、一緒に考えながらつまづきを把握しているか。</p> <p>○学習形態(グループ・ペア・自由形態)を変えるとき、生徒の様子(動き、生徒の言葉のやりとり、机の配置)を観察して人間関係を把握しているか。</p> <p>○グループに参加できない生徒がいたらそばに近づいて個に応じた言葉をかけて不安を把握しているか。</p> <p>○話し合いや作業の様子を観察して人間関係を把握しているか。 ・学級内での人間関係を把握するために、学級担任との情報交換に努めているか。 ・ノートやプリントに書かれた内容から不安や悩みを把握しているか。</p> <p>・授業において消極的になったり、学習が不振になったりしている生徒について、各教科担任、養護教諭、学びの指導員、心の教室相談員等との情報交換して原因把握に努めているか。</p> <p>○気になる生徒の授業の様子を話して、一人の生徒を全職員が目で見ること、生徒を多面的に理解しようとしているか。</p> <p>・学習の遅れがちな生徒に配慮して多様な学習展開を工夫しているか。 ・学習の遅れがちな生徒の悩みの相談にのっているか。 ・学習の遅れがちな生徒について教科担任間で指導情報の交換をしているか。</p> <p>○学習形態を工夫して一人一人の学習状況(スタイル、つまづき、不安)を把握しているか。</p> <p>○机間指導をして、グループの話し合いの内容に耳を傾けて個々の学習状況を把握しているか。</p> <p>○つまづいていたら、言葉をかけ、個に応じたヒントやアドバイスを与えたり、一緒にやることで一人一人の学習状況を把握しているか。</p>

2 一人一人の生徒を支え励ます関係づくりの推進

(1) 基本的な考え方

一人一人の生徒を支え励ます人間関係づくりの推進について、人間関係推進部を中心に、全職員で取り組んでいる。一人一人の生徒を支え励ます学級集団づくり、休み時間・清掃・給食・部活動等の学校生活の中での生徒とのふれあいを通しての生徒の把握、一人一人の生徒についての情報交換、全職員で連携をとりあい生徒の把握に努め、一人一人を支え励ます関係づくりを進めている。

(2) 実践

① 一人一人の生徒を支え、励ます学級集団づくり

- ・生徒一人一人の様子について現職教育等で情報交換を行い、全職員で把握に努めている。また、随時、職員室で気になる生徒についての話題を出し、情報交換をしながら、一人一人の生徒を多面的に見ていこうと努めている。
- ・担任や学年主任、生徒指導主事、養護教諭、心の教室相談員等とも連携を取り合い援助する。

② 生徒とのふれあいを通しての一人一人の生徒の不安や悩み、思いや願いの把握（休み時間、清掃、給食、部活動等）

- ・担任が生活記録ノートを見てコメントを書き、生徒一人一人の不安や悩み、思いや願いを把握することを通して信頼関係づくりに努めている。
- ・学校生活で気付いた生徒についての情報を職員間で「気づきメモ」に書いて担任に伝え、生徒を把握する手がかりとする。

③ 「推進の方策」の「視点やチェックポイント」（学級経営他）の自校化と実践

- ・生徒の実態を学級経営を中心とする学校生活の場面でどういう手立てをとって把握するか、全職員で共通して取り組むものとして、チェックポイントを作成し、自校化を図っている。また、学年・学級の実態に合わせてチェックポイントを見直し、さらに、本校生徒の実態から、学校としての重点化を図って実践している。

3 教師・生徒・保護者の三者で支え合う関係づくりの推進

(1) 基本的な考え方

現在、あるいは将来出会うであろう同和問題をはじめ、様々な人権問題にかかわる不安や悩みを持つ生徒をより早く察知し、より確かに支え励ます教師の姿勢が大切である。そこで、一人一人の生徒に着目し、人権にかかわる不安や悩み、思いや願いを把握し、教師と保護者で支え励ます関係づくりの実践に取り組んでいる。

(2) 実践

① 人権にかかわる不安や悩みについて語り合える関係づくりに努める。

- ・家庭訪問等での保護者との信頼関係づくりを進める。
- ・学年部会等で学校生活における生徒の活動を認め励ますとともに、本校の人権教育の取り組みを話すことで、協力と理解を得る。
- ・学年だより、人権教育だより「ふれあい」等を通して生徒一人一人の長所を認め、励ます。
- ・「人権に関する作文」を生徒全員が書けるように指導し、担任がコメントを書いて返却した後、保護者からの感想を回収する。寄せられた感想は、分析しまとめて、人権教育だよりで知らせる。
- ・三者相談で生徒の学校生活や学習に関する相談を生徒や保護者としたり、二者相談で、学校生活や学習に関する相談を生徒とすることにより、語りあえる関係づくりを深める。

Ⅲ 私の実践

1 研究授業を通して生徒を見る目がどう変わったか

本校では一人一人の学習のねらいを達成するために、つまずきや不安は何なのか、日常生活で把握した人間関係や学習状況等を「座席表」にまとめている。

より深く生徒を見つめていくことが重要であると考え、近くに行き意識的に声をかけたり、生徒の動きや表情を観察したりして、昨日と違う生徒の一面を把握しようとしている。また、学習形態を工夫したり、作業用紙を活用したり、生徒が活動する場を意図的に設けたりして、学習へのつまずきをつかむ努力をしている。

しかし、いざ、座席表を書こうとしたときに、実態がわからず書けない生徒が数名いた。いわゆるおとなしい子、特徴がない子、めだたない子たちである。そのことで、書けないのは、普段、見ているようで見ていないからだということに気がついた。そんなとき、「把握」ということを意識することで、今まで見過ごしてきたことが見えてくるのではとアドバイスを受けた。生徒を意識して見ると少しだけ見えてきたような気がする。

それでもAさんのことは書けなかった。Aさんの担任に聞いた。するとAさんはクラスではリーダー的存在であるとのことである。改めてAさんを見た。確かに今までわからなかったが、そういう面もあることに気づいた。私たち教師はいかに先入観で生徒をみているか、決めつけているかもしれないということを感じた。

座席表を書くことで、意識して生徒一人一人を丁寧に見るようになってきた。書けないのは見てないから。見えないときは何らかの手だてをして見ようとする。試行錯誤を繰り返し整理していくことで、一人の生徒の見方が深まっていくのではないかと思う。事実をつかむことは生徒と積極的に直接、関わらないとつかめない。そこで生徒を把握するために意識的にしたことは、

- ・生徒と活動する時間をできるだけ多くする。
- ・話をするときは目線を生徒に近づけてよく聞く。
- ・意識して一人を見ようとする。
- ・様子が普段と違うときは声をかける。
- ・表面的なことだけでなく背後関係まで考えるようにする。
- ・生活記録ノートを見てサインを見逃さない。

では、座席表を書くことで、私の生徒を見る目はどう変わったのだろうか。生徒一人一人を丁寧に把握するという事は、言うは易いがなかなか難しい。把握していると思って把握していない場合がある。生徒のことをわかった気になってしまいがちである。常に意識して生徒の事実を把握しようとするのが大事だということ学んだ。

まだまだわかっていないことに気付いていかなければならない。

しかし、揺れる気もちもある。以前は悪いことは悪いと強く指導をしてきた。しかし今は内面まで…。と考えると果たしてそれでいいのかとも思う。甘い指導にならないかと不安に思った。でも内面を見ようとしてきたことで、生徒との距離は短くなった。

「先生、あのね、実は僕…」と生徒から言葉が出た時に、頭ごなしに叱らなくてよかったと思う場面が何度かあった。生徒の「なぜ」の部分丁寧に把握することで、お互いの信頼関係が少しずつ築けていることも感じた。今回の研究を通して、生徒を把握することはいかに一人の生徒を観察して関わっていけばよいかという自分自身を見直すよい機会になったと思う。

2 真っ白なコメント用紙から学んだこと

新採として昨年4月から本校に着任したので、正直「人権教育」というものがどんなものなのかわかりませんでした。先生方の生徒に対する関わり方や、研修を通して少しずつ見えてきました。生徒一人一人の心を知ること、理解することは教師にとって大切なことです。そのためにどうしたらよいかみつめるよい機会でした。

授業をこなすのに精一杯で、授業中一人一人の生徒に声をかけ、把握することが難しかったので、授業の最後に毎回コメントを書いてもらうことにしました。一人一人のコメントに対し、交換日記のようにコメントを書いて次の授業で返しました。コメントは授業の内容に対して意欲的になったり、落ち込んだりと様々でした。時には、質問が書いてあったり、何気ない日常会話のようなものもありました。それらは授業を組み立てるのに勉強になっただけでなく、生徒一人一人を知る手がかりになりました。

しばらくするとAさんがまったくコメントを書いてくれなくなりました。その少し前からAさんが反抗的な態度をとっていたのは気になっていたのですが、まだうまくかかわれないだけだとあまり深く悩んではいませんでした。真っ白なコメント用紙に「何か、書きましょう！」と書いて返しましたが、次の時も何も書いてありませんでした。それからは何も書かずに返し続けました。そのうちに何かコメントを書いてくれればいいと心で願いつつ、実際にAさんに「なぜ書かないの？」とは聞けないでいました。真っ白な用紙を見るのに慣れてしまっている自分がいました。

ある時、担任の先生にそのことを相談したところ「はっ」と目が覚めるようなアドバイスをしてくれました。Aさんはその教科に苦手意識をもっていること。甘えん坊で、気をひくためにわざと怒られるようなことをしたりするということ。コメントを書くようせがむのでなく、授業中のAさんの様子でよかったところをこちら側から書き続けるとよいということでした。改めてAさんの様子を見ると、ペアワークを積極的に行っていたり、ALTの話を中心して聞いていたりと今まで気がつかなかったAさんのよい部分が見えてきました。気づいた点を空白のコメント用紙に書くうちに、挙手の数が次第に増えてくるようになり、しばらくして「難しい。英語ができない。」というコメントを書いてきてくれました。そのとき私は言い知れない嬉しさと担任の先生への感謝の気持ち、そして無意識にAさんを「こういう子」と思いこんでいた自分を恥ずかしく思いました。Aさんの無言の抵抗は、私に何かを気づいてほしかったのだと痛感しました。

生徒に要求する前にまず教師がどう寄り添うか、どれだけ生徒一人一人を理解しようと努力するかが、生徒との信頼関係を築く第一歩であるということはこの件で深く考えさせられました。生徒と共に活動する時間を大切にし、意識的に声をかけていくことで、その時々心の様子に触れ、把握につなげていくことができます。他の先生方の生徒への接し方を学びながら、生徒の変化を見逃さず、共に泣いたり笑ったりする時間を共有できるよう日々勉強させてもらっているという気持ちで臨んでいきたいと思っています。

IV 研究成果と今後の課題

本校では、教師一人一人が、研究副主題である「一人一人の心の中を理解し、支え励ます教師」をめざして、生徒一人一人を把握するための実践を積み重ねてきた。以下、3年間の実践を通して、私たち教師が気づいたことである。

1 教師の変容

(1) 授業の実践に関して

- ・生徒を把握しようとして一人一人をよく見つめることによって、今まで分かっているつもりだったことが分からないことに気づいたり、見えなかったことを見ようとするようになってきた。
- ・授業中に生徒が活動する場を意図的に設定し、個別指導や机間指導を通して生徒の学習状況や人間関係を把握しようとするようになってきた。
- ・普段当たり前のようにやっているつもりでも、座席表を書こうとしたときに、書けない生徒がいることに気づいた。把握ということを意識することにより、今まで見過ごしてしまった部分を見ようとするようになってきた。

(2) 人間関係づくりに関して

- ・職員室で、生徒のよい面に関する話題や情報交換も多くなってきた。また、気になる生徒についての情報交換も多くなってきた。
- ・生徒一人一人を把握するために、生徒といる時間をできるだけ長くしたり、話をするときは目線を同じ高さにしてよく聞くようにしたり、様子がおかしいなどと思ったら背景を考えるなどを通して、日常生活の中でどのようなかかわりをもったらよいか、考えるようになってきた。

(3) 信頼関係づくりに関して

- ・教師から生徒に語りかけたり、保護者に話をするを意識して行うことによって、生徒や保護者からも学校生活や学習に関する相談を受けることが少しずつ多くなってきた。
- ・生徒の学校での様子や心配されることについて、担任や担当教師が家庭と連絡を取って話し合い、理解を深めようとするが多くなってきた。

2 今後の課題

(1) 一人一人の生徒をより把握するための授業の実践をさらに進める。授業において、生徒の不安や悩みは何なのか、具体的なかかわりをもって生徒の学習状況や人間関係、生活背景等を把握することが大切である。座席表もチェックポイントも一人一人の生徒を把握する教師の目を養うためのものであり、今後もさらにチェックポイントの見直しを進めていきたい。

(2) 一人一人の生徒を支え励ます関係づくりをさらに推進する。一人一人の生徒を支え励ます学級集団づくり、学校生活の中での生徒とのふれあいを通しての一人一人の把握、一人一人の生徒についての情報交換や全職員での連携を取り合った指導・援助を密にし、さらに一人一人の生徒の把握に努め、一人一人を支え励ます関係づくりを進めていきたい。

(3) 教師・生徒・保護者の三者で支え合い、語り合える関係づくりをさらに深めていきたい。

[研究同人]

校長 上村 和章
教頭 高橋フミ子
教諭 中村 敏
養護教諭 橋本 幸子
教諭 野田 潔
教諭(研究主任) 勅使河原 浩
教諭 田中千栄子
" 増渕 三栄
" 渡邊 賢治
" 坂田 紀男
" 服部 朋子
" 根木島ますみ

事務主任 星野 圭子
事務主事 植木恵美子
技能員 増澤 武雄
非常勤講師 新井美枝子
心の教室相談員 丘 和子
学びの指導員 須藤かつ子
A L T レジーナ・ウィル

(平成16年度)

教諭 伊藤 礼子
技能員 矢口 信之
学びの指導員 小見 樹里

(平成15年度)

校長 石井 政男
教頭 栗原 とみ
教諭 坂齋 茂
" 齋藤 裕美
養護教諭 石井 仁子
心の教室相談員 小池美津子
A L T ジョン・ケネーリ